

のおお市政

No.275 52.4.1



伝統に新風
「朝市開き」

3月20、21日の両日七間通りで「朝市開き」が行われました。

400年の伝統の中で「市開き」が行われたのはことしが初めて。

永い冬の間、農家の「つぐら」や「イモ穴」に保存されていたニンジン、ゴボウ、ジャガイモ、サツマイモ、それに雪の中から掘り出したば

かりのみずみずしいダイコン、キャベツなどがずらりと並べられ、農家のおばさんたちと町の主婦との明るい会話がはずみました。

大野朝市出荷組合長の安川善七郎さんは「春先、いつとはなく始まっていた朝市に区切りをつけて、生産者と消費者が積極的に参加出来る朝

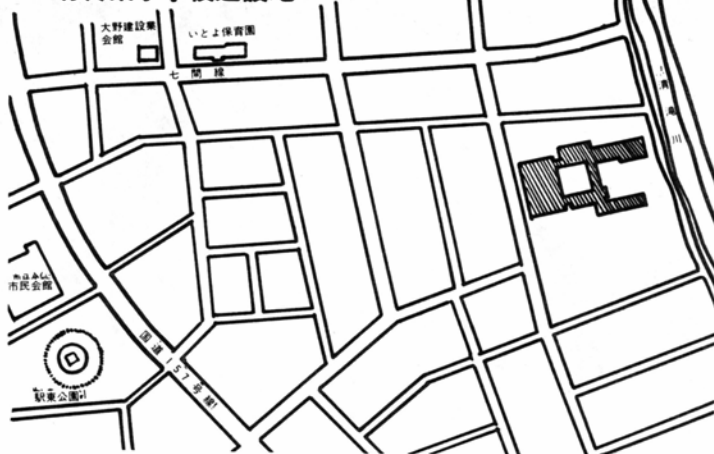
市にするのがねらいで、七間商店街とタイアップして行いました。朝市の品物は新鮮で安心して食べていただけるのが自慢です。大野のよき伝統をますます発展させる意味から、どしどし利用していただきたい」と話していました。

(写真は明るい会話がはずむ朝市)

3月定例市議会



有終東小学校建設地



昭和52年度の市政の方向と予算を決める第164回定例市議会が3月11～24日の14日間開かれ、「一般会計、各特別会計予算案」「大野市学校設置条例の一部を改正する条例案」など30議案を審議し、いずれも原案どおり可決しました。寺島市長は冒頭の施政方針演説で「財源の重点的な配分を行うとともに、大野市百年の大計に立って上水道建設の準備を進め、明るく豊かなふるさと大野づくりに全力投球したい」と述べました。施政方針のあらましや議決内容の主なものを紹介しましょう

を実施してスポーツ人口を多くし、市民の体力向上を図ります。

福祉面では保育所の保母の定数化と調理員の補充を行い保育内容を充実します。

清掃センターは年度内完成を目指し、職員を増員し収集車の更新を行い、来年度中には

適正化、経常的経費の抑制を基本とし、次の3点を重点施策にしていきます。

住みよい文化都市づくり

年次計画で小学校整備

第1は明るく住みよい文化都市の建設です。

市政の基本である教育では、本年度から3カ年計画で東小学校を建設するとともに、危険校舎の改築を年次計画で行っていきます。

社会教育面では、各種学級を開いて市民に学習の場を提供するとともに、移動芸術劇場を招いて市民文化の向上に努めます。

また、スポーツ教室、体力テスト

農村部のごみ収集も出来るよう準備を進めます。

また、し尿処理施設については、前処理施設を造り処理能力を高めてきれいなまちづくりに努めてまいります。

地下水は市民生活と産業振興の上から欠くことが出来ない大切なものであり、この水を守るため当面は地下水のかん養と節水対策を強力に進めなければなりません。

しかし、近代都市の建設には、良質で安定した水を市民に供給することが行政の責務であり、「大野市百年の大計」に立って上水道建設に着手したいと思います。

このため、機構を整備し、市民の理解を深めるとともに、建設の具体的な準備を進めていきます。

地下水解決のため上水道建設

市長施政方針で表明

公共事業に重点

昭和52年は内外ともに経済の年といわれ、国においては国債発行によって財源不足を補い、景気浮揚と物価安定を目指す予算案が組まれています。

当市の自主財源は乏しく市債を増額しなければならない状態にあります。この限られた財源を重点的に配分し、公共事業をとおして景気浮揚に努力します。また、住民負担の

スマイル

「水位下がる」

かわって欲しかったワ!!

— 主婦

物価殿

3月定例市議会

豊かな産業都市づくり

基盤整備83%達成目指す

第2は働きやすい豊かな産業都市の建設です。当市の基幹産業は農業と繊維産業であり、両産業の振興が市政発展の基礎条件です。

このため、農業については土地基盤整備をさらに進めておよそ83%程度の完成を目指すとともに構造改善事業は阪谷地区を新しく加えて農業

の近代化を図っていきます。

繊維産業では技術革新と設備の近代合理化を促進するため、金融対策に重点を置き、さらに産業構造の改革を進めるため、塚原（尚徳中学校の東方）に工場用地20ヘクタールを確保して新しい工場の誘致に努力します

また、林業では造林の促進、林道の開発を進め、市民が緑に親しみ、学習する場として林業振興センターを建設します。

魅力ある中核都市づくり

越美線全線開通に努力

第3は魅力ある新しい中核都市の建設です。大野市は地理的条件として中京経済圏への最短距離にあり、歴史的、社会的にも奥越で中心的な役割を果たしてきました。今後さらに中核都市として発展するためには越美北線的全線開通、国道157、158号線の改良整備が必要であり、沿線および隣県市町村とともにその促進に努力していきます。



終着九頭竜湖駅から末開通地域を望む

市道の改良は農道整備事業と併せて重点施策として進め、秩序あるまちづくりをするため、南部第2土地区画整理事業を推進します。

また、街路、公園、都市下水路等の都市施設については、財源を促進します。

以上の施策を市民のみなさんとともに進め、明るく豊かなふるさと大野、の建設に全力を尽します。



施政方針を述べる寺島市長

条例改正

〈市立学校設置条例〉

有終東小学校の新設

大野市立学校設置条例の一部が改正され「有終東小学校、大野市中挾33街区1番」が市立学校設置一覧表に加われました。これによって市内の小学校は13校、中学校は4校になります。改正条例の施行は来年4月1日からで、東小学校建設はことしから3カ年計画で進められます。

〈林業振興センター設置条例〉

ことし、宝慶寺に建設

大野市林業振興センター設置条例が制定されました。このセンターは

第2次林業構造改善事業計画で、宝慶寺に今年度中に完成します。

林業を開発する人材の育成や従事者の福利厚生などに役立てるための施設です。

〈議員、特別職の報酬〉

市長は43万円

特別職報酬等審議会の答申に沿って、議員・特別職の月額報酬が次のように改正され、4月1日から実施されます。（ ）内は旧報酬

▶議長16万円（13万円） ▶副議長14万円（11万8,000円） ▶議員13万2,000円（11万2,000円） ▶市長43万円（36万円） ▶助役36万円（30万円） ▶収入役31万円（26万円） ▶教育長27万5,000円（22万5,000円）。このほか監査委員、選

挙管理委員会委員等の非常勤特別職報酬も平均25%引き上げられました。

〈職員定数条例〉

清掃センター 保育所に増員

大野市職員定数条例の一部が改正され、市長の事務部局の職員数250人が259人になりました。この9人増は保母4人と今年度中に完成する清掃センター職員5人の充実です。

人権擁護委員に 大門氏を再推薦

任期満了による人権擁護委員に大門俊我氏（62歳、錦町）が議会の同意を得て、法務大臣に再推薦されました。

生活環境の整備

し尿前処理施設 に1億520万円

〈土木〉 道路改良舗装に1億9038万円。市街地幹線水路の改良整備をするための河川改良費 850万円

阪谷地区の小久保橋などの橋りょう改良費に1,780万円。除雪費に1,367万円。

〈都市計画〉 三番線の新庄地係250㎡の舗装工事 1,380万円。中野犬山線85㎡街路改良工事 400万円。

三番線物件移転補償 1,297万円。七間線街路物件移転補償 740万円。

駅東公園整備第4年次分（最終）1,895万円。荒井公園整備に 925万円。亀山公園街路灯修理に 213万円

本町下水路工事に 500万円。緑橋川下水路を4カ年計画総事業費1億8,500万円で整備、その初年度として1,000万円。

〈環境衛生〉 し尿処理場前処理施設全剩汚泥脱水設備の増設に1億520万円。継続の清掃センター建設に3億4,984万円を計上して完成。

阪谷地区の地下水調査のための地表探査委託 112万円。

〈交通安全〉 区画線・標識・防護さく・道路照明などの工事費に538万円。

〈地下水対策〉 馬清水に貯水の

予算総額は60億8,587万円

市債増やして積極型

ため導水路整備 265万円。猪島、堀兼、木本原用・排水路の清掃96万円

産業の振興

林業振興センター 建設5,396万円

〈農業〉 いちごウイルス病無汚

染苗増殖更新事業補助76万円。カントリーエレベーター補助 600万円。

農業近代化資金利子補給 336万円。ほ場整備補助 7,657万円。広域営農

団地農道等県営工事負担金 5,195万円。第2次農業構

造改善事業補助金 3,512万円。

〈林業〉 林業振興センター建設 5,396万円。千本

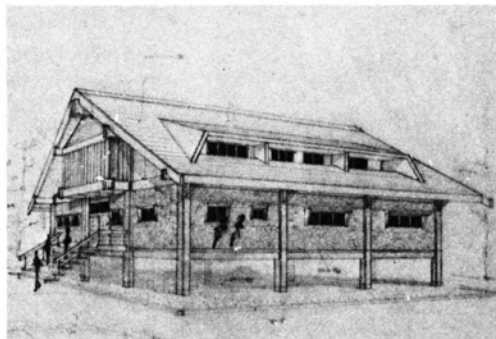
杉林道 660㎡開設 1,000万円。造林施設補助 552万円

エノキダケ生産施設補助 756万円

しいたけ生産施設補助 1,384万円。鬼谷線改良工事 480㎡ 1,800万円。

〈商工〉 地下水再生施設融資利

昭和52年度当初の一般会計予算は47億 3,434万 5,000円、特別会計は13億 5,153万 2,000円総額60億 8,587万 7,000円で前年度に比べて22%増という大型予算になりました。これは東小学校、清掃センター、し尿処理場前処理施設、都市計画事業などの大きな事業、人件費、物件費など経常経費の増加によるも



宝慶寺に建設する林業振興センター完成予想図

子補給金 117万円。商工会議所補助 312万円。中小企業資金預託金 9,300万円。商工中金預託金 500万円。

白山線バス運行費 280万円。

国保会計

保険税16%引き上げ

国民健康保険事業会計は歳入歳出それぞれ11億 9,594万 3,000円で、前年度当初より1億 9,051万 6,000円増え、19%の伸び率です。

歳入の主なもの健康保険税5億525万円、国庫支出金6億 7,310万円、一般会計からの繰り入れ 1,222万円です。

歳出では病院や診療所に支払う医

円などです。

医療費は昭和52年度中に改訂が行われる見込みですので、予算の伸び率も高くなっていますが、これを保険税で全額措置しますと大幅な増額が必要なため、一般会計からの繰り入れによって保険税の伸び率を約16%に抑え、前年度33%の半減に努めました。

療費10億4,095万円、高額療養費 6,007万円、一般管理費 2,932万

簡易水道会計

6水道1,579万円

簡易水道事業会計は、西富田簡易水道など6地区水道の維持管理予算で総額 1,579万円。補修用資材、電気料などの値上がりにより、水道料は平均79%程度引き上げになります

北部土地区画会計

北部土地区画整理事業会計は歳入歳出総額1億 3,979万 9,000円を計上して、街路工事、物件移転——などの事業を進めます。

東小、清掃センターを建設

生活関連事業を重視

のです。これ等の支出をまかなうため、歳入では市税、交付税市債さらに不足額は財政調整基金を取り崩して収支のバランスをとりました。苦しい財政の中でも「必要なことは積極的に行う」行動型予算になっています。どんな事業にどれだけ使われるのか、主なものを紹介しましょう。

教育文化の向上

東小学校建設に 2億5,388万円

〈学校教育〉 東小学校校舎 2棟 2億 5,388万円。蔵生小危険校舎改築 1棟 1,260万円。東・南小学校建設積立金 5,000万円。中学校校舎・グラウンド整備 1,300万円。

〈社会教育〉 青年、婦人、老人等の各学級開設費 541万円。同和教育に 200万円・大野公民館図書購入 100万円。市史編さん原稿謝礼 175万円。芸術劇場事業補助50万円。まちづくり運動推進費70万円。

市民福祉の充実

老人の医療費 2億342万円

〈民生〉 社会福祉協議会補助金 294万円。敬老会補助 183万円。身体障害者施設収容委託料 2,359万円。重度心身障害者医療扶助 196人分 664万円。身障者補装具扶助 271万円。身障者更生医療扶助 219万円。老人家庭奉仕員報償費 284万円。老



健康診断を受けるお年寄り

人クラブ補助 418万円。老人医療費 2億 342万円。児童手当 799人分 4,911万円。乳児医療扶助費（ゼロ歳児580人対象）262万円。私立保育所委託料 1億 6,567万円。私立保育所各種補助金 1,014万円。生活、医療、住宅などの扶助費1億3,891万円

〈衛生〉 成人病、胃・子宮ガン乳幼児検診委託料 514万円。休日診療補助 210万円。

〈労働者福祉〉 労働金庫預託金 3,000万円、労働者信用基金協会預託金 500万円。

— 歳入予算 —

市税は11億3,337万円

市税総額は11億 3,337万円、前年当初より1億 5,658万円多く、16%の伸びです。

地方交付税は前年度実績の7%の伸びを見込み、12億 5,000万円計上しました。使用料手数料のうち保育所関係分は、国の徴収基準改訂を見込み、市債は大幅に増え4億 8,800万円、このうち55%は元利償還について地方交付税基準財政需用額に導入される資金を借り入れる予定です。繰入金1億 9,500万円は、一般財源不足のため財政調整基金を取り崩し、収支のバランスをとりました。

その外の主なものは次のとおりです。国庫支出金8億 7,808万円、県支出金3億 2,711万円、諸収入1億 8,071万円、分担金及負担金 7,555万円、自動車取得税交付金 5,500万円、地方譲与税 4,200万円。

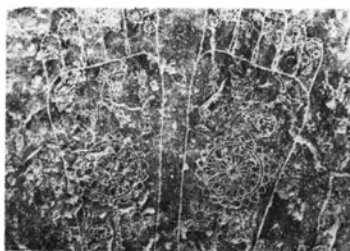


大野成徳

④善導寺の 仏足石

浄土宗光明山善導寺（市内錦町）の本堂には「仏足石」があります。

厚さ約16cmの飛驒マンガン石に、左足を右足より少し前に出した遊行巡錫のお姿をほう



ふつさせる足型が刻まれています。左足は長さ47.5cm、幅18cm。右足は49cm幅19cmの大きさの足型の

中央には、くっきりと法輪が見受けられます。昔の人は仏像を拝むのと同じ心で信仰したものとされていますが、彫られた年代などは定かではありません。

文化、文政期のころのものと推測され、当時は浅彫りだったものを、慶応か明治初年に久治郎という石工が深彫りしたのだということです。

写真には山奥蔵氏（日吉町）提供 仏足石は、釈迦がインド、パトナ村の石の上に立たれたその「仏足跡」であるといわれ県下にただ1つと折り紙づき。

議長に奥村氏、副議長は平間氏



奥村 議長



平間副議長

3月定例市議会初日の3月11日、斉藤秀雄市議会議長、茨山善三副議長が辞任。直ちに正・副議長の選挙が行われ、議長に奥村忠光氏（57歳、中野町2丁目）副議長に平間源治氏（43歳、木本）が当選しました。

奥村議長は昭和38年2月初当選して4期目。建設委員長、市監査委員

などを歴任。

平間副議長は昭和42年2月の初当選以来3期目、総務、建設委員長などを歴任。

市監査委員に 高田・広川氏

市の監査委員奥村忠光氏の辞職と広川静氏の任期満了による委員の選出が行われ、高田新左衛門氏（59歳、高砂町、市議、新任）、広川静氏（74歳、明倫町 知識経験者、再任）が市議会の同意を得て選任されました。



特徴は広域で長期化

冬の井戸枯れ八百二十九戸

市営バス白山線

15日から打波路を2往復

冬期間運休していた市営バス白山線（大野三番一鳩ヶ湯）は4月15日から運行します。

11月25日まで1日2往復し、ダイヤは次のとおりです。しかし、9月15日からは秋季時刻となり午後の1往復の発着が1時間25分早くなります。

市営バス時刻表

停留所名	大野三番	越前大野	勝原口	中神	鳩ヶ湯	
発→	7:00	7:07	7:30	7:40	8:00	→着
着←	9:10	9:03	8:40	8:31	8:10	←発
発→	17:20	17:27	17:50	18:02	18:20	→着
着←	19:30	19:23	18:59	18:48	18:30	←発

打波方面へお出かけの際はご利用下さい。

昭和51年 ゴミ収集状況

不燃物、前年の2倍

今月の納税

固定資産税1期、軽自動車税全期分
30日までに納めて下さい

市はこの程、昨年1年間のゴミ収集統計をまとめました。

ゴミの総量は1万1,000^ト、このうち燃えないゴミは8,426^トで前年の2倍になっています。

燃えないゴミが急に多くなったのは、昨年7月からの市街地の分別収集実施と共に、農村部の不燃物収集が月2回から週1回になり、各家庭からの収集が徹底したためです。

ゴミの量を1世帯当たり直しますと1日4.6^{kg}、年間の経費は1万919円になります。

この冬井戸枯れした家庭はついに829戸に達しました。

近年にない寒さと降雪の日が続いたため、地下水のかん養が極めて少く、その上、融雪に大量の水が使われたのが主な原因と考えられます。

井戸枯れは市街地南部の春日・篠座・糸魚・高砂の各町をはじめ、駅東の有明・月美・美川町などがひどく、従来市街地南部に集中していたものが、北部、西部などにも広がり全域の地下水がピンチになってきました。

2月下旬、各区長さんをお願いした井戸枯れ家庭の調査の結果では、銅管1本（5.5^寸）が289戸、1.5本（6～9^寸）128戸、2本（10^寸以上）100戸、不明312戸でした。

また、井戸枯れ期間が1カ月以上続いた家庭が113戸、16～30日が169戸、6～15日191戸、5日以内67戸になっています。

昭和50年の井戸枯れ775戸の状態は、ほとんどが銅管1本の浅井戸



加入金12～18万円、料金は月2,900円

市は昭和47年に策定した上水道の基本計画を練り直し、昭和52年2月10日現在の物価価格で事業費の試算をしました。

これに基づいて近い将来には上水道の建設に着工し、抜本的な地下水対策を進めていくことになりましたので、その概要を紹介しましょう。

給水地域は市街地全域と、南は下堀、右近次郎、北は中野町、友江などの郊外に及ぶ約7,400戸、3万人が対象です。

この水道は生活用水の安定供給を第1の目的にしていますので、大口工場用水は含まず、6カ年計画で建設することになっています。

水源は清浄でコストの安い地下水を使い、菖蒲池、友江、中保、中挾堂本、横枕に深さ100mの井戸11本を掘り、1日に1万6,500m³を取水

その水を木本に建設する配水場へ送り、自然流下方式で各家庭に給水する計画です。

総事業費は約60億円、そのほとんどを政府債で借入れ、5年据え置き28～30年で償還する予定です。

建設に当たっては各家庭、事業所に加入金を負担していただくこととなりますが、1戸・1事業所当たりの額は一般家庭用12～18万円、営業用24～32万円、工場用56万円です。

また、水道料金は一般家庭を例に挙げますと、1カ月20m³の水を使う(現在12.5～16m³)として月2,900円程度と見込めます。

工事は水枯れのひどい市街地南部から始め、配管完了とともに仮取水井を設けて給水、最終には本管となぎ上水道施設として完成させる計画です。



区長宅を訪問して節水の協力を要請する市職員

で期間も4～10日で回復していましたが、ことしの場合はそれ以後に打ち直した鋼管1.5本、2本の井戸も枯渇期間が長期化するという深刻な状態になってきています。

市が設定した9カ所の観測井はこの深刻な状態をよくデーターにとどめており、昨年12月下旬からことしの1月上旬にかけてどの地点でも水位が1.5m前後低下、さらに1月末から2月上・中旬も著しく下がりました。

最も水位が低かった春日公園では2月16日にマイナス5m99cmまでになり、ホームポンプの揚水能力の限界をはるかに越える水位となりました。

このような状態から3月2日に開かれた地下水対策審議会では「上水道建設を具体化すべきだ」「工場はもちろん各家庭にも量水計を取り付けるなどをして節水を進める必要がある」「町内会ごとに地下水懇談会を開いて市民の関心を高めなければならない」などの意見が出され、強力に抜本的な対策が議論されました。

①水道とは



水道の歴史は古く紀元前320年に建設されたローマ水道に始まります。

しかし、現在の水道に近いものが現われたのはパリとロンドンで17世紀、さらに水量だけでなく水質が重視されるようになったのは、19世紀に入ってからです。水道には大きく分けて上水道、工業用水道、下水道の3種類がありますが、一般的に水

道といえば上水道を指し昭和32年に制定された「水道法」は都市上水道についての法律です。

現在わが国では、ほとんどの都市に上水道があり、この法律によって公衆衛生の向上と生活環境の改善が図られています。

規定の中には人口100人以下の水道は除かれ、給水人口5,000人以下のものは「簡易水道」として給水装置の基準がゆるくなっています。

給水人口が5,000人を超える市街地は上水道設定区域となり、水道を建設するならば法で定められた上水道施設をしなければならず、大野市街地に上水道を設ける場合、水道法に基づく完備した施設を造ることになります。(写真は紀元前320年のローマ水道……世界の文化史蹟から)

春の全国交通安全運動4月6～15日

老人と子供を事故から守ろう

春の全国交通安全運動が4月6～15日の10日間繰り広げられます。

春先は冬の重苦しさから開放されて自転車の使用や遊びが多くなり、自動車はスピードを出しがちになります。また入園、入学シーズンで新

しい生活が始まる時期でもあります「話し合う家族で事故のない世界」「赤信号、老人・子供・白いつえ」を合言葉にして子供と老人の交通事故防止、無謀運転の防止、夜間の交通事故防止の運動を進めましょう。



◆ゴミ収集市街地週2回

市街地のゴミ収集は今月から燃える物は週2回、燃えない物は週1回行います。また、農村部の危険物収集は週1回で、収集曜日はいずれも昨年と同じです。

どのステーションも冬の間の汚れが目立ちますので、利用者が協力して清潔に心掛けて下さい。

◆越前大野城開館

越前大野城は4月1日から開館します。

時間は午前9時～午後4時（日曜祝日は午後5時）で、日曜日と祝日の翌日は休館日です。

◆市清掃員を募集

〈職種〉 じんかい清掃員

〈採用資格〉 昭和24年4月1日～昭

和34年3月31日までに生まれた身体健康な男子

〈人数〉 男子2人

〈申込期日〉 昭和52年4月20日（水）まで

〈申込方法〉 市庶

務課にある申込書に履歴書（写真付）

を添えて大野市役所庶務課（天神町

1～1）へ提出して下さい。

◆生活学校へどうぞ

生活学校ではメンバーを募集しています。

暮らしの中のいろいろな問題について関係者と話し合っ、豊かな地域社会を築いていこうとする集団です。

主婦であればどなたでも入れますので、希望者は4月30日（土）までに大野市教育委員会社会教育課内大野生活学校準備委員会（6-1111内線404）へ申し込んで下さい。



第19回福井県緑化大会

4月21日午後1時、宝慶寺で

伸ばそう

ふやそうこの緑

◆浄化そう設置家庭にステッカー

4月1日からし尿浄化そうを設置している家庭には「浄化そう設置届出済証」「浄化そう維持管理契約済証」の2種類のステッカーを玄関に張りより一層衛生維持に心掛けていただくことになりました。

し尿浄化そうを設置されている家庭は市保険衛生課または大野保健所へ届け出て下さい。

◆郵便局へ転居届を

転居（市内の移動）されたとき郵便局へ転居届を出しておきますと、1年間は旧住所あての郵便物が新しい住所へ転送されます。転居届用紙は郵便局の窓口にありますのでご利用下さい。

◆犬の登録を忘れないで

犬の登録と狂犬病の注射を4月1～12日各公民館、保健所など市内23カ所で行います。未登録の犬を飼っている方は市役所保健衛生課へ日時最寄りの会場をお尋ねになり、登録して下さい。

また、犬の放し飼いは通行人に大へん迷惑をかけることがありますので、必ずつないでおきましょう。



発行 大野市 編集 秘書広報課（電話 0111-1111）
印刷所 柳松浦印刷所

喜びを感じる▼大昔、わが国のあけぼの時代における木花開耶姫（コノハナサクヤヒメ）の明るく美しい物語。木花は、ほかならぬ桜の花を意味し、「開耶」の音は、そのままサクラの語源であるといわれていることなどを考え合わせると、昔々の日本の国原の春は、一面の桜花で美しく色彩られたであろうことを、巧まずして想像してみたい。……と本田正治氏は「日本のサクラ」の中で述べている▼古代、日本の桜は春の訪れを告げる花であるとともに、農業社会の一年を予告し啓示する神秘の花であった。律令社会のころの「神祇令」に、春の終わりに「鎮花祭」を行うことを規定。花を鎮めることは、その年の農業が平安に豊かに進展するための呪（じゆ）術であり、祈りであった。ここにいう花はもちろん桜花である。この鎮花祭の名残が京の今宮の「やすらい祭」であることは余りにも有名である。こうした鎮花の伝統が「日本人」と「桜」の関係をますます深く、強く結びつけてきた▼庭の桜、公園の花、堤の桜さては深山に人知れず春を告げる山桜花。桜、桜、桜。ランドセルの新入児童が母に手をひかれて校門をくぐるほほ笑ましい風景には、人間が生きていることの喜びと「自然」と「人間」との融合をしみじみと感じる。

M 生